

## 今年は瓜生氏（千葉県成田用水地区）が受賞

関東農政局では土地改良事業地区の営農推進に著しく功績のあった方を表彰し、その功績を広く紹介することを目的に「国営土地改良事業地区営農推進功労者表彰」を行っています。本年度は千葉県より推薦され、水資源開発公団営「成田用水地区」でにんじんの周年栽培体系の確立と地域営農の推進に功績のあった瓜生 義孝氏（千葉県多古町）が受賞し、その表彰式が平成15年12月16日（火）に開催されました。

瓜生氏は事業により整備された畑地かんがい施設を活用してにんじんの周年栽培を図るとも

に、やまといも農家との農地の貸し借りや緑肥作物のすき込み等、連作障害を回避するための輪作体系の確立と普及に取り組みました。



▲写真前列中央左が瓜生義孝氏、中央右が夫人の恒子さん

### 事業実施前の状況と畑かん整備

多古町は千葉県北東部の北総台地に位置しています。昭和40年代以前は落花生とかんしょが主要作物で、農業用水は天水に依存し、作物栽培は不安定でしたが、水資源公団営成田用水（昭和46年～昭和55年）及び関連事業によりかんがい施設等が整備されたことによって、一年を通じて農業用水が確保されました。

### 農地交換による連作障害の回避

周年栽培によりにんじんの作付け面積は80aまでに拡大しましたが、にんじんの連作による線虫被害が発生し、その対策が必要となりました。極力農業に頼らない連作障害回避の方法を検討す



▲スプリンクラーによる散水 ▲にんじん

### にんじんの周年栽培技術の確立

事業実施前、瓜生氏のは場ではかんしょ等を主に栽培していましたが、事業により年間を通じて農業用水が安定供給されたことを契機に、新たににんじんの周年栽培（春夏にんじん、秋冬にんじん）に取り組みました。それまで地域の一部で秋冬にんじんの栽培は行われていましたが、周年でのにんじんの栽培体系の確立を目指し、農業改良普及センターと連携して早生品種の検討、作期拡大のためのマルチ栽培の導入等を行いました。また、かん水効果について展示ほ場で実証調査を行い、地域への畑地かんがいの振興にも努めました。

る中で、同じように連作障害に頭を悩ませていた「やまといも栽培農家」と農地の交換を行うことで、にんじんとやまといもを組み合わせた連作障害回避のための輪作体系を確立しました。やまといも栽培農家とは場交換をする際に有利だったのは、事業によりほ場の基盤整備がなされ畑地かんがい施設等ほ場条件が均一であったことです。更に、連作障害回避のためには土づくりが重要であるとの考えから、緑肥作物としてソルゴーを栽培体系に組み込んでいます。また、多古町農協園芸部会に所属し、にんじんを中心に地域農家へ畑作営農の積極的な啓発に努めています。

### にんじんの作付け体系（模式図）



事業実施前（S55年）と営農定着後（H12年）の10a当たり農業所得の比較。

